

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (東北)		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・ゴールデンウィーク以降、乗客数、販売量共に上向きになっている。天候に左右されるアパレルもあるが、全体的に駅周辺を中心に活性化の動きがみられている。
		商店街（代表者）	・好天が続いており、例年よりも夏物の動きが早くなってきている。そのため、今後は気温が上がるとともに夏物の売行きが伸びると期待している。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・全体的な景気は安定しているためモチベーションは良いものの、必要以上のものを買わないという消費マインドは変わらないとみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・好調であった前年を上回る月もあるなど、良い状態が続いている。出遅れた夏物も前年を少しずつ上回っており、この先も好調が続く見込みである。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・1年で最も酒類が動く時期のため、販売量の増加を期待している。ただし、天候の影響を最も受けるのもこの時期であり、常に動向を注視する必要があるため、余裕は一切ない。
		コンビニ（エリア担当）	・店舗数でのシェア率向上に伴って認知度も上がるため、相乗効果での来客数増加が見込める。
		衣料品専門店（店長）	・前年は8月下旬まで天候不順が続き、夏物需要が全く動かなかった。今年の夏は暑くなるという予報のため、夏物需要の伸びに期待している。
		乗用車販売店（経営者）	・9月から市場に多少の動きがはじめて後半の需要期に突入するため、期待をしている。
		乗用車販売店（従業員）	・この先は人気車種の受注が再開されるため、少しは良くなるとみている。
		乗用車販売店（本部）	・月末以降、新型車発表会が続くため、来客数の増加が期待できる。また、競合各社も攻勢を強めてくるとみており、景気は若干上向くとみている。
		住関連専門店（経営者）	・8月のお盆、9月の彼岸と仏事行事が続き、小物仏具の売上増加が見込めるため、今よりは良くなるとみている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・OPECの増産合意など、原油の価格水準の低下が見込まれており、買い控えが緩和されると見込んでいる。
		一般レストラン（経営者）	・夏のボーナスが増えていると聞いているため、期待をしている。
		一般レストラン（経営者）	・天候が良くなって人が出てくるため、やや良くなるとみている。
		観光型旅館（スタッフ）	・この先は、夏休み、夏祭り、お盆と続くため期待をしている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊部門は引き続き好調に推移するとみている。一般宴会も、夏のピヤガーデンは気温が上がるとともに個人的需要が伸びていくのではないかと。ただし、婚礼部門は来館数に左右されることが多く、半年先の取組を頑張りたい。
		旅行代理店（経営者）	・北朝鮮問題が落ち着きをみせており、サッカーワールドカップでも日本の快進撃が続いているため、この影響で消費に盛り上がり生まれ、海外旅行が増えることを期待している。また、夏休みについては、この先の予約に期待がもてそうな動きが出ている。
		通信会社（営業担当）	・大幅な設備の増強で新規メニューも増えるため、既存客の追加申込みによる単価アップが見込まれている。また、サービスエリアの拡大により、新規客の獲得も期待できる。
		美容室（経営者）	・働き方改革で改善が進んでボーナスが若干増え、ボーナス商戦が若干回復するのではないかと期待している。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・石油関連製品の値上がり以外に懸念材料は見当たらない。
	住宅販売会社（経営者）	・宅地分譲の段取り中である。予約も入り年内には販売予定のため、景気は良くなるとみている。	
	その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・リフォーム工事の問合せ件数が前年を上回っており、今後も増えていく見込みである。	
	商店街（代表者）	・暑さが続いているが、来客数に結び付いていない。	
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・今年の夏は猛暑との情報があるが、余り暑すぎても外に出て買物をするのが少なくなるため、結果として今の悪い状況は変わらないのではないかと。	
	一般小売店〔寝具〕（経営者）	・利益の大きい布団の仕立て注文がないため、この先も厳しいとみている。	
	百貨店（売場主任）	・地域の景況感や客の購買動向などからは、消費拡大の動きはまだまだ弱い。商品内容やサービス、販売プロモーションといった消費喚起と、自店舗の利用促進に向けた一層の努力が必要である。	

百貨店（企画担当）	・売上及び来客数などの動向に大きな変動がない。
百貨店（営業担当）	・個人所得の上昇が期待できないため、大きな変化は期待できない。消費喚起策を積み上げていくしかない。
百貨店（営業担当）	・客は衣料品などの購入に慎重になっており、大きな伸びは見込めない。
百貨店（買付担当）	・景気が好転するような要素がなく、クリアランスセールも例年同様に期待はできないとみている。
百貨店（経営者）	・夏のボーナス商戦やそれ以降の消費の活性化に期待をしているが、現在の消費動向が急激に変化するとは考えにくく、様々な消費喚起の施策を打っていく予定である。
スーパー（経営者）	・この先も消費を刺激するような要因が見当たらない。そのため、消費の動きは依然として同じ傾向が続くとみている。
スーパー（店長）	・ガソリン、灯油の値上げなどにより、節約志向に拍車がかかっている。この状況は簡単には変わらないとみている。
スーパー（店長）	・来客数は回復基調がみえているものの、前年実績を上回るとは考えにくい。また、ドラッグストアなどの出店による来客数の減少傾向は続くとみている。
スーパー（店長）	・ここ数か月、当店ではチラシの商品価格の強化、更には特別なチラシを入れての低価格販売を進めている。そのため、前月と比較しても売上、来客数共に若干の増加をみせている。ただし、この先に更に改善をみせるかは不透明である。
スーパー（営業担当）	・気温の上昇に伴い、飲料品、酒類、涼味を中心に需要の増加が期待できるため、前年並みの売上が維持できるとみている。
スーパー（副店長）	・景気が上向いている雰囲気があり、特売品や目玉商品が売れている。ただし、客の財布のひもは固いままとみている。
コンビニ（経営者）	・夏の予約商品の獲得件数が伸び悩んでいる。特にウナギは価格上昇の影響もあり、予約数は減少傾向にある。また、夏のギフトも伸び悩んでいる。消費者はお金をもっとも消費に回していないのではないかとみている。
コンビニ（エリア担当）	・外部環境に大きな変化がなく、横ばいで推移するとみている。
コンビニ（エリア担当）	・東京オリンピックに向けて、人口が首都圏に流れているのではないかとみている。また、復興需要も減少してきていることから、この先の景気回復は難しいとみている。
コンビニ（店長）	・気温の上昇と週末の天候に左右されることが多いが、秋にかけて大きなイベントがなく、競合状況もある程度落ち着いてきているため、売上に大きな変化はないとみている。
衣料品専門店（経営者）	・祭事用品の売り込みやお中元の受注に奔走しているが、送料の高騰には頭が痛い。
衣料品専門店（経営者）	・7～9月は秋物が立ち上がる時期となる。天候によるため先行きは不透明であるが、それほど悪い印象もないため、秋物は少しずつ動いていくとみている。
衣料品専門店（店長）	・サッカーワールドカップなどのイベントで消費者のモチベーションが上がるとみているが、暑さが前倒しになっている現状からは、単価が稼げるビジネス衣料の動きが鈍くなると見込まれる。
衣料品専門店（店長）	・ファストファッションでもクールビズ商材を取り扱うことが増えているため、来客数の減少に歯止めが掛からない状態が続くとみている。
衣料品専門店（総務担当）	・前年に届かない状態が継続している。この先も景気が上向くとは考えにくい。
家電量販店（店長）	・白物家電は、安い海外メーカーの商品が売れている。ガソリン価格の高騰などの影響により、客の財布のひもが固くなっているのではないかとみている。テレビなどは有機ELなどの画質の良い商品が売れているものの、単価は徐々に下がりつつあるため、景気向上は余り期待できない。
家電量販店（従業員）	・天候次第であり、この先の暑さがどうなるかによって夏物商材の売行きが変わってくる。
乗用車販売店（従業員）	・来客数、販売量共に、数か月前から変化がない。悪くはなっていないものの、数か月後に良くなるとも考えにくい。
乗用車販売店（店長）	・7～8月は販売量の動きは少ないとみているが、半期の決算月に当たる9月は販売量の増加が見込まれる。
住関連専門店（経営者）	・受注件数がやや少なくなってきている。この先も状況に大きな変化がないことから、景気も現状と変わらない状態が続くとみている。
その他専門店〔酒〕（経営者）	・現在の状況は長く続くのではないかとみている。半年程度ではそれほど大きな変化はないものの、年単位では地元の売上は落ちていくとみている。

その他専門店〔靴〕 (従業員)	・衝動買いよりも、じっくりと商品を吟味して購入する客が多い。
その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕(営業担当)	・例年、暑さが残って秋物に移行するタイミングが遅くなっている。衣替えの時期が変化しており、更には衣替えのない会社もあるため、この先も余り変わらないとみている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕(営業担当)	・暑い夏になるとみられているが、冷房が石油系燃料から電気への移行が続いているため、販売量は増えない見込みである。秋の終わりまでは現在と同様の推移になるとみている。
高級レストラン(経営者)	・特に景気が良くなる要素がないため、このままの状態が続くとみている。
高級レストラン(支配人)	・周辺の飲食店では好調と不調が半々で分かれており、酒屋も余り景気が良くないと聞いている。一方、インバウンドのようなプラスの要素もあるため、どちらともいえない。
高級レストラン(支配人)	・夏のイベントの前売り券を発売しているが、単価を上げたこともあるのか、余り状況が良くない。
一般レストラン(経営者)	・予約状況からも、2～3か月先も現在と同様の状態が続くのではないかと。これまでランチタイムを頻繁に利用していた団塊の世代の来客数が減っている。レストランという形態は、この先も厳しい状況が続くとみている。
一般レストラン(経営者)	・予約状況を見ると、3か月先の景気は横ばいかやや悪くなるのではないかと。客からも景気が上向いているような話を聞けない。
一般レストラン(経営者)	・インバウンドの影響もあり、他県や他国の来客数は増えているものの、地元客の動きが活発になるような要素は見当たらない。
観光型ホテル(経営者)	・夏休みを控えているが、例年に比べ予約状況が良くない。前年のような大きな大会もないため、前年比も良くならないとみている。
観光型旅館(経営者)	・景気が好転するような要因がなく、消費動向も波が荒いため、先行きの景気は変わらないとみている。
都市型ホテル(スタッフ)	・宿泊部門、宴会部門の予約状況からは、前年並みの売上が確保できる見込みである。
旅行代理店(店長)	・景気が良くなる要因が見当たらない。
通信会社(営業担当)	・賃上げがあるものの、一部の企業だけであり底上げにはなっていない。今後も景気向上は期待できない。
通信会社(営業担当)	・景気が大きく左右するような要因に乏しい。
通信会社(営業担当)	・ガソリン価格の値上がりもあり、ますますコスト削減の方向に傾いてきている。
テーマパーク(職員)	・この先の景気が好転する要素が見当たらない。
観光名所(職員)	・今月の前年比は非常に良い数字となっている。この状態を維持するような客の動きもあるため、現在の好調は今後も続くともみている。
観光名所(職員)	・個人の海外旅行が増えているように見受けられるものの、東北地域全体の景気が回復しているとまではいえない。
遊園地(経営者)	・ガソリン価格の高騰の影響が懸念されるものの、秋には3連休が3回あるため、一定の効果が期待できる。
競艇場(職員)	・現在の来客促進策では現状維持が精一杯であるため、新たな策を講じなければならない。
美容室(経営者)	・客は年配者が多く、新しい客となる若者がいないため期待できない。
商店街(代表者)	・飲食店では、人手不足によるアルバイトなどの人件費が増加している。また、今すぐの話ではないが、禁煙問題も危惧され始めていることから、この先一段と厳しくなるのではないかとみている。
商店街(代表者)	・人件費高騰、人手不足、コスト高など、地元商店街を取り巻く環境は一段と厳しくなっており、景気回復の兆しがみえない状況である。
スーパー(営業担当)	・7月以降もエリア内ではスーパーマーケット、ドラッグストアなどの出店が予定されており、今後も来客数、売上共に厳しい状態が続くとみている。少子高齢化や地方の人口減少に歯止めが掛かるはずもなく、競争だけが一段と激化しており、当面景気の回復は見込めない。
コンビニ(経営者)	・人口減少の影響は大きいですが、その他にも購入点数や購入頻度の低下、衝動買いの減少など、景気が下向きになってきているように見受けられる。
コンビニ(経営者)	・経営の厳しい状況は今後も続くともみている。
衣料品専門店(経営者)	・サマーセールが始まって、客の購買意欲は上がっていない。節約志向は当分続くともみている。
乗用車販売店(経営者)	・客の高齢化と若年層の車離れ、ガソリン価格の高騰により、先行きの景気は余り良くないとみている。

	住関連専門店（経営者）	・来客数の増加が見込めないため、この先の景気はやや悪くなるのではないかと心配している。	
	観光型ホテル（スタッフ）	・週末の来客数の見込みが思ったほどには伸びていない。	
	都市型ホテル（スタッフ）	・法人による宴会需要は堅調に推移しているものの、宿泊、レストランにおける個人需要は前年割れが続いている。また、先行きの予約状況も芳しくない。	
	旅行代理店（店長）	・6月のこの時期において、国内、海外旅行問わず8月の予約がほとんど入っていない。	
	旅行代理店（従業員）	・特に8月の予約状況が芳しくない。	
	通信会社（営業担当）	・北朝鮮問題など、この先多額な国民負担を強いるような案件が多すぎる。また、自動車関税25%への引上げなどの貿易摩擦が、内需に影響を与えるとみられ、更に異常気象による農産物の影響、災害対策による国民負担の拡大、住民税、所得税などの負担の増加が危惧されており、先行きの景気はやや悪くなるとみている。	
	×	商店街（代表者）	・予約状況からは、相変わらず先行きは悲観的である。前年同様に後半の落ち込みが激しくなるのではないかと。
	×	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・当店の客層の中心は高齢者であるが、客との会話のなかでも生活が厳しいという声を聞いている。ガソリン価格の高止まりや運賃の高騰など、どこでもやりくりが大変な環境のなか、高齢者の家計のみ改善するという要因は見当たらない。むしろ今より厳しくなる見通しもあり、今後の経営環境の一層の悪化を懸念している。
	×	スーパー（経営者）	・消費税の引上げの報道がされ始めており、消費者の節約志向はますます高まってきている。
企業 動向 関連  (東北)		建設業（従業員）	・官庁の発注見通しでは、夏頃にかけて大型の公共工事などの発注が進捗する見込みであり、受注業者の拡大による景気の上向きが期待できる。
		広告代理店（経営者）	・取引先に動きがみられており、前年に比べて受発注量が増えつつある。ただし、東北の業界全体では不透明感が拭えない。
		経営コンサルタント	・夏のボーナスや夏祭りに期待をしている。
		司法書士	・不動産取引が増加しているという声を多く聞いている。
		その他非製造業〔飲食品卸売業〕（経営者）	・得意先の在庫状況が改善される見込みのため、先行きの景気は上向くとみている。
		農林水産業（従業者）	・天候に恵まれており、桃、りんごが順調に生育している。特に桃は理想的な収穫になるのではないかと期待している。
		食料品製造業（経営者）	・業界大手が秋口より製品価格の値上げを発表している。原価上昇に対して、どのように対処するかが大きな問題である。
		食料品製造業（経営者）	・前年は夏以降に多数のイベントがあったが、今年は特に観光客が増加するような要因がない。
		食料品製造業（営業担当）	・新商品の販売量の動きも芳しくなく、この先も大きな変化はないとみている。
		木材木製品製造業（経営者）	・一部の製品は、中堅メーカーの製造減少による供給不足や、当該製品の先行きの材料不足の可能性から需要が拡大する可能性があるものの、全体的として改善が期待される要素は見当たらない。そのため、現在の流れが続くとみている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・この先の8～9月は暇な時期に入る。また、人手不足のこともあり、余り良い展望が抱けない。
		金属製品製造業（経営者）	・個別の案件ごとに差があるため、現状は良いものの、先行きは不透明である。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・携帯機器の開発スパンに対し、半導体部品の開発が追従できている。今後もこの状態が続くとみている。
		建設業（企画担当）	・工事受注額は当初の見込みどおりであるため、この先2～3か月は現状のままで推移するとみている。
		通信業（営業担当）	・今後は、他社への切替えも覚悟しながら、採算面を勘案して割り切った判断も必要になる。
		通信業（営業担当）	・政治の影響がないと中小企業は好転しない。
		通信業（営業担当）	・今後の見込み値が横ばいで推移している。
		金融業（営業担当）	・この先、特に大きな変化要因はない。
		広告業協会（役員）	・夏～秋へ向けての観光誘致PRの拡大に期待しているが、これといった大型イベントの計画もなく、横ばいの状況がしばらく続く見込みである。
		広告代理店（経営者）	・この先、景気が良くなるような要因が見当たらない。
	その他非製造業〔飲食品卸売業〕（経営者）	・メーカーの値上げが先行しているが、実際の販売価格は上がっておらず、デフレ傾向がますます進むのではないかと。先行きの景気が良くなるような見通しが無い。	

	その他企業 [ 企画業 ] ( 経営者 )	・得意先からの価格見直しについては、いずれは元の契約単価に戻したいという話ではあるが、余り当てにはできない。しばらくは現在の状況が続く見込みである。
	その他企業 [ 協同組合 ] ( 職員 )	・好調であった半導体関連の受注は、この先1～2か月は在庫調整などにより多少の減少が見込まれている。ただし、全体的には現状維持が続くとみている。
	農林水産業 ( 従業者 )	・さくらんぼの価格低迷が続いて収益が悪化しており、豊作といっても収益が減少している部分をカバーしきれていない。
	繊維工業 ( 経営者 )	・毎月の店頭の売上が悪いため、先行きの景気もやや悪くなるとみている。
	出版・印刷・同関連産業 ( 経理担当 )	・2～3か月先の受注残高は約10%落ち込んでいる。日本銀行のマイナス金利政策の影響により、各金融機関は経費圧縮のため印刷物を少なくしている。
	窯業・土石製品製造業 ( 役員 )	・上期で工事が終了する物件が多い。そのため、下期以降は大型の工事物件が大幅に減少する見込みである。
	輸送業 ( 経営者 )	・現時点で大きな動きはないものの、燃油費の高止まり、働き方改革による長時間労働の抑制に向かって、様々な対策への経費増加が見込まれている。
	金融業 ( 広報担当 )	・一次産業や運輸業などにおいて燃料費負担の悪化継続が見込まれることから、末端価格への影響が懸念される。
	公認会計士	・小売業、サービス業関係の落ち込みが、少しずつではあるが拡大しているように見える。製造、建設関係も業績の拡大は見込めないため、全体的に景気は若干悪くなるのではないかと。
	コピーサービス業 ( 従業員 )	・物流コストの値上げ要請が出てきている。宅配便の値上げや、委託している配送費の値上げなど、販売価格に転嫁できるか不透明である。
	x	* *
雇用 関連 ( 東北 )	人材派遣会社 ( 社員 )	・採用難は今後も継続していく見込みのため、この先の募集ニーズも高まり続けるとみている。
	人材派遣会社 ( 社員 )	・現状の利益改善の傾向は、今後2～3か月にわたって続くともみている。
	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	・新工場建設に伴い、住宅建設、運輸業、宿泊業に動きが出てきている。
	人材派遣会社 ( 社員 )	・現在の大学3年生に向けた2020年度採用において、既にインターンシップを行うなど、採用に積極的な企業は前年よりも増えている。
	人材派遣会社 ( 社員 )	・求人とのミスマッチが多い状況は今後も続くともみている。
	人材派遣会社 ( 社員 )	・現状の改善が見込める要素が少ない。
	人材派遣会社 ( 社員 )	・求人や求職者の動きに大きな変化はみられない。
	職業安定所 ( 職員 )	・人手不足が顕著であり、企業が求める人材が供給されにくくなっている。
	職業安定所 ( 職員 )	・減少傾向で推移していた新規求職者数が、前年同月比で微増となったものの、新規求人数も微増している。また、カーナビ関連事業所における100人超の人員整理が発生したものの、製造業における新規求人数の前年同月比は増加で推移している。
	職業安定所 ( 職員 )	・職業別にみると、サービス、生産工程、専門技術、福祉関連の求人が多い。一方、求職者は事務職の希望が多く、人手不足の解消にはならないことから、景気も変わらないとみている。
	職業安定所 ( 職員 )	・新規求人数の前年同月比は1.6%の微増である。新規求人倍率は前年同月を下回ったものの、求職者の一時的な増加によるものである。また、今のところ大規模な企業の創業の動きもない。
		アウトソーシング企業 ( 社員 )
	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	・求人告知の媒体が、新聞や雑誌から、急速にWeb系のデジタル媒体に変わってきている。そのため、デジタル対応が遅れている中小企業は、ますます求人が出しにくくなっており、大企業との格差が広がっている。この傾向は今後も続くともみえており、地元経済への影響は必至である。
	x	- -